

— 小山地区社協だより —

ほほえみ

第73号

～ともに生きる～

<http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/chikushakyo/oyama/>

発行日・2021年10月1日
 発行・小山地区社会福祉協議会
 相模原市中央区向陽町8-1
 小山公民館内
 ☎042-755-0350
 発行 小山地区社会福祉協議会
 責任者 会長 長谷川澄男



令和3年ひまわり交流会



令和3年ひまわり交流会が7月9日(金)10時より小山公民館大会議室で21名の参加により開催されました。この「ひまわり交流会」は、令和元年度までは「ひまわり昼食会」として開催されており、ひとり暮らしの高齢者を対象に孤立しがちな生活において皆さんとお食事を楽しみながら、交流を深めたり助け合いの輪を広げることを目的として実施していました。昨年度はコロナ禍で中止となりましたが、今年度は交流会に変更。感染対策をしっかりと行い参加人数を制限しての開催となりました。

司会進行は地域支え愛委員会 遠藤秀雄委員長が行い、小山地区社会福祉協議会長谷川澄男会長のあいさつで始まりました。はじめに、とことん懐メロ歌謡楽団による演奏会が「青い山脈」を皮切りに8曲演奏され、青春時代を思い出しますマスク越しではありますが笑顔が伝わり会場は盛り上がりました。

ここで休憩を挟みビンゴ大会に移ります。ハズレなしのビンゴ大会ですが序盤からみなさん真剣な様子で数字とにらめっこ。なかなか当選者が出ない中、会の中盤で最初の当選者が！その後続々とビンゴ当選者で賑わい景品を選ぶ姿がとても嬉しそうでした。

おわりの言葉は地域支え愛委員会 遠藤委員長により、次回12月の開催では従来のひまわり昼食会が行われることを願い盛況のうちに終了しました。関係者のみなさま、お疲れ様でした。



ボランティアスキルアップ研修会

ボランティアスキルアップ研修会が、6月12日(土)午前10時より小山公民館大会議室で開催されました。「認知症と介護の勉強会」をテーマに、第1部・第2部の構成で進められ、第1部「介護経験のお話を聴く」では、お母さんの介護を経験された山田良章さんと、その時お世話になった実の里 理事長の原 和教さんのお話を聴きました。

十数年前、山田さんがお母さんの認知症を意識されたのは火の消し忘れがきっかけで、その時に原さんが相談・アドバイスに携わってくれました。認知症についてよく分からない不安の中でしたが、本人の意思を尊重することが大事であることを学び、食事の時やひとり歩き行動*などの大変な状況もあったが家族だけで悩まず、どんどん相談したこと。肉体的負担より精神的負担が大きく、自身のリフレッシュも大事と話され、お世話になった原さんへの感謝が述べられました。

原さんからは認知症の方への対応について、本人の行動には目的があり、その行動をすぐ止めるのではなく見守っていくことが大事。山田さんが介護の中でお母さんと向き合い、常にお母さんの様子を聞いてくれていたことなど当時の状況を話され、介護に携わる中で家族が向き合ってくれることで在宅サービスが成り立ち、お母さんを最後まで在宅介護できたのはご家族のご協力のお陰ですと話されました。

第2部「認知症サポーター養成講座」では、小山高齢者支援センターの鎌田さん(看護師)と白井さん(社会福祉士)のお二人がスクリーンを使って話を進められ、認知症の人が増加する将来予想。認知症と物忘れの違いの具体例を挙げ、その対応を正しく知ること。サポーターの意義と役割などについて話されました。

また、皆で支え合うネットワークシステム等を解説し、家族のことだけでなくご近所の方の相談でも、まずは高齢者支援センターに連絡・相談するよう呼びかけられました。

※認知症の人の行動を説明する際に使用する「徘徊」という表現については、「目的もなくうろうろと歩き回る」という意味がありますが、認知症の方の外出には本人なりの目的や理由があるとされています。この「徘徊」という表現を認知症の方の立場に立った適切な表現に見直し「ひとり歩き」と表現しています。



ご長寿おめでとうございます

例年、敬老会を開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とし、令和3年9月15日時点で80歳以上の小山地区に住民登録されている方を対象に、敬老の記念品をお贈りしました。



1年ぶりに親子サロン 「あつまれ！おやこ」が開催されました

5月27日(木)10時30分より小山公民館2階多目的室で「あつまれ！おやこ」が開催されました。この「あつまれ！おやこ」は月に1回、地域の子育て支援ボランティアさんが見守る中、子育て中のお父さんお母さんの仲間作りやお子様どうしの交流の場として開催されている子育てサロンです。コロナ禍により昨年度は休止していましたが、今年度は5月より活動を再開。開催時間を通常の半分以下に短縮し、床・おもちゃ・絵本の消毒や拭き取り、室内換気の徹底など「コロナ禍でも安心して遊んで欲しい」というボランティアさんたちの思いを感じました。

サロン当日はあいにくの雨でしたが3組の親子の参加があり、そのうち1組は初参加とのことで、おもちゃ等の利用方法や活動内容の説明を受けていました。「また次回お会いしましょうね！」とボランティアさんたちもまた会えるのを楽しみにしている様子でした。

コロナ禍以前では、夏のビニールプールや季節ごとのイベントも開催され、お父さんお母さんだけではなく時にはおじいちゃんおばあちゃんがお孫さんを連れて遊びに来ることもあり、大人も子どもも楽しみながらリフレッシュした様子で帰られるとのことでした。

0～3歳くらいの乳幼児と保護者を対象としており、申し込みは不要。妊婦さんも大歓迎！是非お気軽に遊びに行ってみてください！



今後の予定：10/28、11/25、12/16、1/27、2/24、3/24

時間：午前10時30分から午後0時30分まで（出入り自由）

場所：小山公民館 多目的室（2階）

※新型コロナウイルスの感染状況により、急遽予定を変更する場合があります。



編集後記

幾多の困難を乗り越えて、世界中の人々に感動と希望、勇気を与えてくれた東京五輪・パラリンピック大会。何事も最後まで諦めない心が大切だと学びました。コロナ禍の中でも今できることをこれからも続けていきたいと思えます。

広報委員会一同

おやま生活サポートセンター NEWS No.1

互^ご近^{きん}助^{じょ}ボランティアが活躍されています

集合住宅にひとり住まいの高齢者の方からの、一般ごみのゴミ出し支援依頼に対して、同じ集合住宅にお住まいの方々に週1回の協力を呼び掛けました。

「自分の家からゴミを出すついでだし…」 「ゴミ袋を出すくらいなら…」と2名の方に手を挙げていただき、現在は月2回ずつ支援活動をしていただいています。



おやま生活サポートセンターではこのような互近助活動を広めて行く予定です。

可能な限り自分のことは自分で対応した上で、それでも自分で対応できなくなり、頼れる家族などもない時には助けを求めよう。誰もがいずれ「助けられる人」になっていい。願わくば元気なうちは出来る範囲で構わないから「助ける人」になれるといい。人間どうし、どこかで迷惑を掛け合い、そして助け合いながら生きています。「困ったときはお互い様」の気持ちで、ご近所どうし助け合い支え合いましょう。



おやま生活サポートセンター

高齢者世帯や子育て世帯などの日常生活での困りごと
おやま生活サポートセンター
がお手伝いします!

【電話の場合】 **090-5990-0294**

※随時お電話を受け付けています。
※出られない場合は折り返しご連絡いたします。

【窓口の場合】 毎週 金曜日 午前10時～正午(当面の間)

おやま生活サポートセンター

相模原市中央区氷川町8-16
氷川町公園南側にある、日本ホーリーネス教団相模原
キリスト教会のカフェスペースをお借りしています



ありがとうございます

匿名の方より小山地区社会福祉協議会宛に2万円のご寄附をいただきました。寄附金は地区の福祉事業に有効に活用させていただきます。心温まるご寄附、誠にありがとうございました。

ふれあいのつどい 令和3年11月6日(土)

参加費無料
申込制

①福祉講演会&サクソコンサート

1部 福祉講演会

「あなたは終の棲家をどう考えますか？」
講師 介護施設「実の里」理事長 原 和教氏

2部 VIFサクソフォンアンサンブル オールサクソによる演奏

定員：25名(申込制)
時間：午前10時00分～午前11時40分
場所：小山公民館大会議室

②こどもの工作コーナー

1回目：リサイクル万華鏡づくり
午前10時00分～午前10時40分
2回目：絵手紙体験
午前11時00分～午前11時40分
定員：各回10名(申込制)
場所：小山公民館多目的室

①②ともに申込制です。
10/11より受付開始(☎042-755-0350)。定員に達した時点で締め切らせていただきます。

※プログラムは変更となる場合があります。
※開催を見合わせる場合があります。